３　現場組織表



４　安全管理

工事現場内の安全管理については、作業員の労働災害の防止並びに疾病を予防するとともに、第三者に対する災害の絶無を図ります。

工事期間中は、安全巡視員を定め、作業員等の指導、工事区域とその周辺の点検活動を毎作業日ごとに行うとともに、労働災害の防止のため、会社の安全管衛生理者が毎月１回店社パトロールを実施します。また下記の組織を構成するとともに、事故発生時における連絡表を定め、安全確保に努めるとともに事故に備えます。

安全訓練の実施については、月に１回の頻度で研修・訓練等を実施するとともに、下記のとおり工程にあわせた安全教育を実施します。

①月別研修・訓練計画

|  |  |
| --- | --- |
| 〇月 | 工事内容、工程に合わせた安全訓練項目を選び、計画し、具体的に記載する。 |
| 〇月 |  |
| 〇月 |  |
| 〇月 |  |

②資材搬入者等一時入場者への工事現場内誘導方法

（具体的に記載）

③現場内の業務内容及び工程の作業員への周知方法

（具体的に記載）

④危険予知活動（KY）及び新規入場者教育の方法

（具体的に記載）

⑤場内整理整頓の実施

（具体的に記載）

安全対策として下記の組織を構成し、事故発生時における連絡表を次に定めます。

また、安全訓練等の実施については、仕様書第130条第10項に基づき行い、安全訓練の実施報告書（別紙様式２－７）に整理します。





５　指定機械及び主要機械

指定機械及び主要機械計画表

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 機械名 | 規格 | 台数 | 指定区分 | | | 摘要 |
| 低振動型 | 低騒音型 | 排ガス対策型 |
| バックホウ | 0.6m3 | ２台 | 〇 | 〇 | 〇 | 掘削、埋戻し、積込 |
| 大型ブレーカー | 1300kg級 | 1台 |  |  |  | 岩石掘削 |
| 空気圧縮機 | 10.5～11.0m3/min | 1台 |  | 〇 | 〇 | 岩石掘削、吹付 |
| ダンプトラック | 11t | ２台 |  |  |  | 残土運搬 |
| ブルドーザー | 21t | 1台 |  |  | 〇 | 残土処理 |
| コンクリートポンプ車 | ブーム式90～110m3/h | 1台 |  |  |  | ｺﾝｸﾘｰﾄ打設 |
| トラッククレーン車 | 油圧式25t吊 | 1台 |  | 〇 | 〇 | ｺﾝｸﾘｰﾄ打設 |
| 水中ポンプ | 口径100㎜、揚程10m | 1台 |  |  | 〇 | 水替 |
| 発動発電機 | （Ｄ駆動）10kVA | 1台 |  |  | 〇 | 水替 |
| モルタルコンクリート  吹付機 | 0.8～1.2m3/h | 1台 |  |  | 〇 | 植生基材吹付 |

６　主要資材

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 品名 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 | 資料の  提供 | 品質規格証明書等 | あいくる  材 |
| 生コンクリート | 18-12-40BB | m3 |  | 〇〇生コン㈱ | 〇 |  |  |
| 止水板 | 塩ビ　W=30　t=7 | m |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  |  |
| 水抜管 | VU65 | m |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  | 〇 |
| 目地材 | T=10 | ㎡ |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  |  |
| 堤名板 | 40×30 | 枚 |  |  |  |  |  |
| 小丸太（スギ） | 末口径7㎜以上 | m3 |  | 〇〇森林組合 |  | 〇 |  |
| 植生ネット（肥料袋付） | １×10.0ｍ | ㎡ |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  |  |
| ひのき苗 | 根元径7㎜3年生 | 本 |  | 〇〇建材㈱ |  |  |  |
| 固形肥料 | N:P:K＝3:6:4 | kg |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  |  |
|  | N:P:K＝3:4:3 | kg |  | 〇〇建材㈱ | 〇 |  |  |
| 種子 | トールフェスク | kg |  | 〇〇建材㈱ | 〇 | 〇 |  |
|  | よもぎ | kg |  | 〇〇建材㈱ | 〇 | 〇 |  |
|  | かや | kg |  | 〇〇建材㈱ | 〇 | 〇 |  |

７　施工方法

　（１）一般事項

　　　①作業時間及び休日又は夜間作業

ア）作業時間

集合体操 〇時〇〇分～〇時〇〇分

業務打合せ 〇時〇〇分～〇時〇〇分

作業開始 〇時〇〇分

昼食休み 〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分

作業終了 〇〇時〇〇分

休憩 午前、午後各〇〇分

イ）休日

土曜日、日曜日、祝祭日

夏期休業 8月〇〇日～〇〇日

冬期休業 12月〇〇日～1月〇〇日

ただし、作業の区切りその他により就業時間を変更する場合は、監督員に報告して、実施します。

工程の関係又はその他の理由により、休日あるいは夜間において作業を実施する場合は休日(夜間)作業届を提出するとともに、安全対策、監督員の立合などについて別途打合せを行います。

②　施工に先立ち起工測量をし、その成果を監督員に報告します。

施工BMの設置は、図面等で指示された高さで、作業中に逸失の恐れのない堅固な場所に設置します。

③　各側点については縦横断測量を行い、その成果について設計図面に朱書きで対比し、監督員に資料を提出します。

④　丁張は各側点及び重要な箇所に設けます。

⑤　工事施工後は後片付け、踏み荒らし箇所等の補修及び清掃などを行います。

（２）〇〇工

＊　各工種の施工方法について、簡潔に記述する。

＊　谷止工等コンクリート工事がある場合には、コンクリート打設計画図表、ポンプ配管図（別紙様式２－３～２－６）を添付すること。

（３）仮設工等

ア　工事用搬入路

工事用資材の搬入のため、〇〇道路より第1号谷止工まで搬入路を設置する。

構造　幅員　4.0m

敷砂利（切込砕石）　厚　10cm

イ　水替施設の状況

発動発電機を設置し、〇〇kVAを使用し、水中ポンプ口径〇〇〇㎜〇台を据え付け排水にあたります。

ウ　運搬道路の維持補修

運搬道路の維持管理は十分行うこととし、特に路面の凸凹が著しい場合は切込砕石などにより補修を行う。また、砂利道でほこりの多い場合は直ちに散水を実施します。

８　施工管理計画

　（１）工程管理

工程管理については、実施工程表で総合的に管理します。

また、必要に応じて工事の進捗状況の確認を受けるとともに、実施工程表について日々管理をします。

　（２）出来形管理

出来形管理基準により、次の項目について実施します。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 工種 | 測定項目 | | | | | 測定基準 |
| 基準高 | 高（法長） | 幅 | 厚 | 延長 |
| 谷止工（コンクリート） | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | １施工箇所毎に測定 |
| 流路工（コンクリート） | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | １施工箇所毎に測定 |
| 土留工（コンクリート） | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | １施工箇所毎に測定 |
| 柵工（丸太） |  | 〇 |  |  |  | 全箇所測定 |
| 植栽工（ひのき、やしゃぶし） |  |  |  |  |  | 標準地を設定し測定 |
| 吹付工（植生基材） |  |  |  | 〇 | 〇 | １施工箇所毎に測定 |

１　別途、出来形測定表又は出来形測定図を提出します。

２　構造図には必要に応じて出来形寸法を朱書します。

（３）品質管理

品質管理は次のとおり実施します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 種別 | 試験項目 | 試験方法 | 試験基準 |
| コンクリート施工 | スランプ測定  空気量測定  圧縮強度試験  塩化物含有量測定 | JIS A 1101  JIS A 1128  JIS A 1108  （σ28は公的機関にて実施）  「ｺﾝｸﾘｰﾄの耐久性向上（案）」 | 強度試験供試体採取毎  強度試験供試体採取毎  50m3に1回（σ7・σ28各3個）  1日2回（午前・午後） |

なお、工事完了後に品質管理図書（別紙様式8）により試験結果等を提出します。

　（４）　写真管理

工事写真は、写真管理基準により実施します。なお、撮影並びに編集に際しては、目的・表現が明確になるように創意に努めます。

撮影箇所一覧表

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 工種 | 種別 | 撮影項目 | 撮影時期 | 撮影頻度 | 代表写真  選定頻度 |
| 着手前・完了 | 着手前 |  | 全景又は代表部分写真、施工ＢＭ、起工測量 | 着手前 | 着手前1回 | 着手前1枚 |
| 完了 |  | 全景又は代表部分写真 | 完了後 | 施工完了後1回 | 施工完了後1枚 |
| ～ | ～ | ～ | ～ | ～ | ～ |  |

９　緊急時の体制及び対応

　（１）大雨、出水、強風、地震等の異常気象で災害発生の恐れがある場合は、下記の組織構成で体制に入り、必要に応じ現場内をパトロールして警戒します。



また、作業現場内において事故発生又はその恐れがある場合、作業時間内は直ちに体制に入り、現場代理人以下現場構成表の各担当職務に応じ行動します。

なお、事故発生時の連絡系統及び夜間又は休日における連絡方法は次図のとおりです。



（２）南海トラフ地震に関連する情報（臨時）に伴う臨機の措置

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）が発せられた場合には、情報の収集に努めるとともに、下記事項及び必要な補強等の対策をとり、工事中断の措置をとります。

①　堤体等の掘削中の工事は、作業を中止し、埋戻しを行います。

②　コンクリートの打設中の場合は作業を中止します。

③　残土等の運搬中の場合は、ダンプトラック等の運転を中止し、一般交通等第三者に対する安全確保します。

④　機械及び器材等は安全な場所に待機させます。

10　交通管理

交通標識、保安設備を完備するとともに、特に夜間交通に対するバリケード、工事灯などの配置には注意します。

必要に応じ交通整理員を配置して、一般交通、歩行者に対する安全を図ります。

11　環境対策

工事に伴って発生する振動、騒音については、特定建設作業実施届書を提出し、公害規制法条例等にふれる場合はもちろんのこと、単に工事による迷惑を及ぼす程度の場合であっても、出切るだけ工事に伴う騒音、振動などを生じないよう、また、重機等のエンジンを必要以上ふかさないよう工法、機械を選定し、作業時間の短縮、変更を考慮し影響の軽減に努力します。

河川の水質汚濁防止には、排水にあたり沈砂池等を設け泥分を沈殿させ、放流します。

なお、工事中地元住民等より苦情又は意見があった場合は、丁寧に対応し直ちに監督員に報告します。

12　現場作業環境の整備

　　現場作業環境の整備として、下記事項を実施する。

１　現場内にフラワーポッドの設置

２　バリケード、工事標識にイラスト、カラフルなデザインを採用し、イメージアップを図る。

３　現場事務所のイメージアップとして、作業員の個別ロッカー、各種衛生施設（ウォータークーラー、シャワー設備）等の設置

13　再生資源の利用促進

再生資源の搬入及び再生資源の搬出にあたっては、愛知県建設リサイクルガイドライン実施要綱に基づき、再生資源利用計画書（別紙様式２－８）、再生資源利用促進計画書（別紙様式２－９）、等を提出します。

また工事完了時に、その実績及びあいくる材使用状況報告書（別紙様式２－１０）、あいくる材使用実績集約表（別紙様式２－１１）を電子データと打ち出し様式にて提出します。

14　その他

林務関係工事標準仕様書、特記仕様書等で施工計画書に明記又は記載するよう指示されているものは必ず記述します。

その他特に必要とする場合は、稼働日数表、労務計画表、支保工計画等もつけます。